

2008年10月31日

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)

第三期 (2008-2009 年度) 総会 榎 文彦理事長 挨拶

丁度、DAAS が設立されてから2年経ちまして、後ほど詳細なご報告があると思いますが、Web に対するアクセスも非常に増えているということで、心強く思っております。また今後、この DAAS のアイデンティティーと、それから、どうやってよりよく皆さんに周知されていくか、もちろん、当初の目的であります建築写真のデジタル化、その保存、利用は中心の目的となりますが、様々な活動を行うことによって、より広く建築界の皆様、このデジタルアーカイブの機能、及び存在を知って頂くことは非常に大事だと思います。その点で、卒業設計のプレゼンテーションなども行っているということで大変結構だと思いますが、それだけでなく、最近、大学・学生大賞、或いは、若い方に対して、各種のコンペなども行われおりますので、そういうコンペに関する情報をここで取り扱われるということは、おそらく、より裾の広がった建築界を対象にして、様々な活動ができると思います。それが、やはり間接的に本来の目的である、アーカイブの方も充実していかれることになると思います。

すでにお話ししたと思いますが、2011年には、国際建築家会議 UIA(Union International Architect) の東京大会が行われます。ここでは、内外併せて、約1万人の方が来られるであろうということでありまして、こういう機会に、どのようにしたらデジタルアーカイブが様々な形で貢献できるか、ということを考えてもよいのではないかと思います。そのためには、2011年は少し先のようなのですが、来年くらいから、UIA の事務局の方とお話合いになって、どういうことができるか、例えば、そこで行われるであろう、全てのイベントに全ての方が出られるわけではないので、このデジタルアーカイブを通じて、より、comprehensive な会の活動が紹介できるということも一つかと思えますし、そういうことを考えていきますと、これから情報化社会、グローバリゼーションの中で、そうした活動が、極めて大事になってくるであろうとそういう風に考えております。そういうわけで、一言理事長からご挨拶にかえまして、お話をさせて頂いた次第でございます。どうもありがとうございました。

(※理事長ご挨拶を事務局でテープ起こししたものです。)